

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立毛利台小学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 多田 智子

学校教育目標

学校経営の方針

心豊かにたくましく生きる子どもを育てる

豊かな心を持ち自己の目標に向かって努力し、たくましく生きる力を持った児童を育てるために教育目標を設定し、全教職員が学校教育の責任を自覚し、協力指導體制の確立を図り、信頼と和を深め、一人一人の個性と創意を生かして協働し、学校教育目標の具現化を図る。

今年度の重点目標

確かな学びづくり「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
 すこやかな体づくり「基本的な生活習慣形成のための指導の充実と安全教育・健康教育の推進」
 豊かな心づくり「主体性を高め、人との繋がりを大切にしたい好ましい人間関係・集団作り」
 校内研究「自分を見つめ仲間とともに思考を深め、よりよく課題を解決できる子～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育科授業の研究～」

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1)確かな学び ○評価項目 学校づくりアンケート質問番号 ③⑦⑧	1・3	・校内研究において「指導と評価の一体化」を目指して研究に取り組んだ。 ・ICT端末の活用により、児童の思考の深まり、児童間の考えの共有の活性化を目指した。	・校内研究の体育の授業について新学習指導要領の3観点の評価について研究したことを生かし、体育以外の科目についても3観点の「指導と評価の一体化」を授業で進めていこうという意識が高まった。しかし、「主体的な学び」についての項目では、児童、保護者ともに肯定的な回答が7割にとどまり、十分達成できているとはいえない。 ・ICT端末利用は、児童と教職員共に93%が肯定的な回答であったことから校内でのICT端末利用は活発に行われていると考える。しかし保護者の肯定的な回答は75%であったことから、さらに学校での取組を周知していく必要がある。	・「主体的な学び」をさらに進めていくためにルーブリック評価を積極的に取り入れるなど授業や評価の改善をしていく。 ・GIGAスクール構想がスタートしてからの2年間は、「まず使ってみる」ということが目標だったが、利用が定着してきたことをうけ、今後は、ICT端末を利用するだけでなく、それが児童の学びの向上にどのようにつながっていくのかをしっかりと検討しながら進めていく。
(2)すこやかな体 ○評価項目 学校づくりアンケート質問 ④⑤⑥	1・2	・ドッジボール大会、なわとび週間等全校で児童の体力づくりに取り組んだ。 ・交通安全教室の実施や通学路の見直し、登下校指導など交通安全に対する児童の意識を高める取組を継続して行った。	・「外遊びをしているか」という項目についての肯定的な回答は、保護者が6割、児童が7割、教職員が8割という結果であった。しかし、ドッジボール大会やなわとび週間などのイベントには多くの児童が積極的に参加する姿がみられ、運動すること自体にはどの児童も抵抗なく取り組んでいると考えられる。 ・地域の方の見守りが充実しており、今年度も大きな事故はなかった。しかし、自転車乗車時のヘルメットの着用や防犯ブザーの携帯率を見ると十分とは言えず、安全に対する教職員の肯定的な回答は、6割にとどまった。	・2年間体育の校内研究をしてきたことを生かし引き続き児童の体力向上を進める取組をしていく。今年度、体力テストについて研修を行ったことを生かし体力テストをさらに効果的に活用していきたい。地域学校協働活動推進本部主催でラジオ体操も行われ、地域でも児童の体力向上について考えていただいているので地域と協働してすすめていきたい。 ・交通安全教室を全学年毎年実施していく。市が行ったウェアラブルカメラでの通学路撮影の取組をさらに効果的に活用し、児童の交通安全に対する意識をさらに高めていきたい。
(3)豊かな心 ○評価項目 学校づくりアンケート質問 ①②⑩	2・3	・リソースルームの配置の工夫や整備をした。 ・職員のインクルーシブ教育に対する意識を高めるために研修会を設けた。 ・ICT端末の積極的な活用により、より個に対応した学習が可能となった。	・市から派遣していただいているリソースルーム支援員を十分に活用したり、元気アップスクールの予算を使い環境整備をしたりした。 ・インクルーシブ教育の研修を校内で行ったり、ディスレクシアについての研修を外部講師を招いて行ったりしたことなどで多様な学びに対する職員の意識が高まった。 ・オンラインでの授業参加を登校しぶりの児童に促すことで良い方向に向かってきているが、実際の登校にはつながっていない。	・多様な学びについての必要性を職員は理解しているが、実際にどのような方法で進めていけばよいかについては、具体的には動きだしていない。児童の困り感に寄り添いよりよい支援策を講じていきたい。 ・相談室を整備し、保護者が利用しやすいレイアウトにしていく。またSCやNWCとの連携を深め保護者が安心して相談できる体制をさらに整えていきたい。 ・オンラインの活用により個別最適な学習を進めていくが、別室登校を促すなど実際の登校につながるような方法を探していきたい。

(4)コミュニティ・スクールの推進 ○評価項目 学校づくりアンケート質問 ⑩⑫	3	・地域学校協働活動推進本部を中心に計画的に地域との連携を進めた。	・学校の様子を学校ホームページで随時発信している。情報発信については、89%の保護者が肯定的な回答であった。しかし、コミュニティ・スクールの活動については認知度がまだ低いと思われる。 ・今年度は、全学年が何らかの形で地域学校協働活動本部と共に教育活動を行うことができた。また地域学校協働活動推進本部が発足し、より円滑に活動を進めることができた。夏休みのラジオ体操など地域学校協働推進本部主体で行う活動もスタートした。	・1月に学校ホームページがリニューアルされたことを受け、校内でも全職員がホームページ作りに積極的に関わることができるようシステムを変更していく。これにより担当が児童のより生き生きとした表情を発信していきことが期待できる。 ・ボランティアの参加者が限られた方々だけになっているのが課題であるため、今後はいろいろな方法で発信をし、認知度を高めていきたい。
--	---	----------------------------------	---	--

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・交通安全に関しては、ヘルメットを着用する児童が増えてきたように感じる。4月からは、大人のヘルメット着用も推奨される。大人がまず手本を示していきたい。
- ・あいさつについては、もう少ししてほしいところだが、学校のあいさつ推進活動で意識が高まっていると思うので今後期待したい。
- ・登下校の歩行については、話しながら歩いていて無意識に車道にはみ出している児童も見られる。集団登校班がないこと、道がある程度整備されていることなどから児童が安心できているところもある。交通事故の危険は常にあるということを今後も意識させていきたい。
- ・ICT端末の活用については、教職員と児童の数値が高いことから活発に活用されているのだと思う。しかし、一方でICTに頼りすぎて育てていきたいところ(しっかりメモをとる・文章を書く等)がおろそかになってきているようにも感じる。ICT端末は、あくまで道具として考え、育てていくべきところはしっかりと伸ばしてほしい。
- ・保護者との相談体制がしっかりとしており、保護者にとっても安心できる体制が整っているといえる。しかし、16%の保護者は、不安を抱えている可能性があるため、これらの保護者に目を向けすべての保護者にとって安心して相談できる体制を目指してほしい。
- ・学校は、児童が楽しく学校に通えるように様々な取組をしていると考える。しかし楽しいと感じていない児童が7%いることから今後も引き続き努力をしてほしい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

感染対策を講じながらも昨年度に比べさらに教育活動の幅を広げることができた。GIGAスクール構想や新学習指導要領も3年目となりより、実践的な取組になるように職員で共通理解をしながら検討を進めた。今年度も学校教育目標の具現化に向けて、組織的で機能的な学校運営を心がけることができた。学校運営協議会においても地域学校協働活動推進員を中心として運営方針について丁寧な検討を重ね、運営の基盤が整ってきた。次年度も、教職員とめざす児童像を共有・連携し、地域とともによりよい学校経営に取り組んでいきたい。